

第3学年 音楽科学習指導案

い組 男子17名 女子17名 計34名
指導者 濱田 宏明

1 題材 ドレミで歌おう

教材 ドレミあそび
「ドレミで歌おう」 小原光一 作詞 作曲者不明（本時主教材）
「海風きって」 高木あきこ 作詞 石桁冬樹 作曲

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

これまでに子どもたちは、第2学年題材「ドレミであそぼう」において、体を動かしながら階名唱したり鍵盤楽器を演奏したりする活動を通して、階名と音の高さとの関わりを感じ取りながら表現することの楽しさを味わってきている。さらに子どもたちは、さまざまな曲を階名唱したり、楽器で演奏したりしたいという欲求が高まってきている。

そこで、本題材では、五線譜上の音符と音の高さとのかかわりを感じ取り、階名唱したりふしづくりをしたりする活動を通して、拍の流れを感じ取りながらハ長調の音階で表現する能力を育てるとともに、ハ長調で視唱・視奏することに関心をもち、**記譜上の音符と音高との関連をとらえる能力**を高めることをねらいとして、本題材「ドレミで歌おう」を設定した。

ここでの学習は、リズムや旋律の感じを生かした演奏を工夫する能力を育てる第4学年「ふしの感じを生かしてⅡ」の学習へと発展していくこととなる。

(2) 指導の基本的な立場

拍の流れを感じて音の高さを感じ取りながらハ長調の音階で表現する能力を高めるためには、階名視唱や階名模唱を通して音階に親しませ、体を動かしたり鍵盤楽器で演奏したすることで楽譜と音の高さとを関係付けてとらえさせることが効果的である。**特にこの期の子どもたちには、体を動かしながら五線譜上の音符と音高の関係を実感させたり、音符、休符、記号や音楽にかかわる用語の指導を合わせた活動を工夫することが大切である。**

具体的には、まず、ドレミあそびで、階名や五線譜に対する理解を深めることができるように、拡大五線譜やワークシートで音符の位置と階名、五線や縦線、ト音記号について、拡大五線譜の上で動いたり指でなぞったりして音の移り変わりをとらえさせ階名視唱につなげていく。

次に、「ドレミで歌おう」を取り上げる。この教材は、順次進行の旋律を歌詞唱して音の高さをとらえたり、鍵盤ハーモニカで指くぐりや指またぎの奏法を使ってスムーズに演奏することを身に付けさせたりするのに適している。そこで、ここでは、**拡大五線譜を使ったりドレミ体操を取り入れたりしながら階名唱や分担唱など子どもたち同士のかかわりをもたせた多様な活動を設定し、音の高さを感じ取りながら正しい音程で階名唱できるようにする。**

さらに、「海風きって」を取り上げる。この楽曲は、子どもたちが歌詞を基にして海の様子をイメージしやすく、簡単なふしづくりができる教材である。そこで、ここでは、海の様々な様子の写真やイラストを見せ、イメージ作りの参考にさせる。また、題材の重点となる音楽を形づくっている要素である音階の働きを感じ取ることができるよう、体を動かして音の高さの変化を視覚的にとらえながら考えているイメージと自分や友達の演奏を関係付けながら階名唱や鍵盤ハーモニカで演奏することができるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは、音階や拍の流れを中心とした音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りながら階名唱したり楽器で表現することに関心・意欲を高め、音程に気を付けながら階名視唱したり鍵盤ハーモニカでの演奏やふしづくりをしたりしようとし、楽しく音楽とか

かわっていかうとする態度を養うことができる。

(3) **子どもの実態** (調査対象 3年い組 男子17名 女子17名)

本学級の子どものたちの実態は次の通りであった。

①	ドレミで歌うことは好きですか。
	はい (3 2) いいえ (2)
②	その理由を教えてください。(複数回答)
	【「はい」の理由】 ・楽しい (1 6) ・おぼえられる (5) ・楽器がひけるようになる (3) ・リズム感がつく (3) ・歌いやすい (3)
	【「いいえ」の理由】 ・むずかしい (2) ・まちがう (1)
③	ドレミで歌うことのよさはなんですか。
	・楽器でひけるようになる (1 2) ・おぼえやすい (5) ・楽しく歌える (5) ・ドレミの勉強になる (3) ・リズムがよくなる (3) ・楽譜が読めるようになる
④	「かえるのがっしょう」をドレミで歌いましょう。
	・階名・音程に気を付けて歌える (3 2) ・階名・音程に気を付けて歌えない (3)
⑤	提示された旋律の階名を答えることができる。(ドミファラレ)
	・できる (1 4) ・できない (2 0)
⑥	提示された旋律について体を動かしながら歌うことができる。
	・音の高さの上がり下がり体を動きで表現しながら歌える (2 6) 表現できない (8)

①②から、子どもたちの多くが階名で歌うことを楽しく感じ、階名で歌うことに抵抗を感じていないことが分かる。一方「好きではない」と答えた子どもたちは、階名暗唱の難しさを不安の理由に挙げている。暗唱する際の記憶が曖昧で階名を誤ってしまったり、正しい音程で歌うことができなかつたりすることが要因であると考えられる。

③から、階名を覚えることで楽器を弾く際に便利であることを中心に挙げている子どもが多く、歌唱におけるよさを考える子どもは少ない。その要因としては、階名に対応させて音の高さを上げ下げすることで旋律の移り変わりを表現できる階名視唱のよさを実感する経験が少ないからであると考えられる。

④⑤⑥から、既習曲については階名暗唱できているが、五線譜に関する学習は未履修であり、階名を答えられる子どもが一部である。また、提示された五音の階名視唱を行うことができた子どもは少ないが、旋律線の上がり下がり体を動きで表現することができる子どもは多かつた。これまで階名模唱により階名唱をしてきた経験が多く、階名視唱を行う際の要領を得ていないことが要因と考えられる。

(4) **指導上の留意点**

以上のようなことをふまえて、指導にあたっては次のようなことに留意したい。

ア まず、課題把握・課題追求Ⅰの過程では、**五線譜の仕組みを理解したり題材の重点となる音階に関心・意欲をもたせられるように、既習曲を階名唱させ階名について関心をもたせたり、拡大五線譜上で少ない音の数を使った旋律の演奏に合わせて動いたりする活動を取り入れる。**その際、グループ内での動きの見取りにより理解を深めさせることができるようにする。

イ 次に、課題追求Ⅱの過程では、**拡大五線譜やワークシートで体を動かしながら旋律の動きを把握できるようにするとともに、ドレミ体操を取り入れ、音の高さを感じ取ることができるようにして旋律把握ができるようにする。**さらに、階名暗唱しながら鍵盤ハーモニカでの演奏を行うことができるようにする。

ウ 最後に、課題追求Ⅲ・まとめの過程では、拍の流れや音の高さを感じ取りながら表現することができるようにするとともに、自分が考えた、いかや波、船等の動きのイメージと旋律の音の移り変わりを音の高さによって関係付けさせ、楽しくふしづくりをすることができるようにする。その際、音の高さに着目できるように教師のつくった例や試しにつくったふしを比較し、音の高さとイメージの動きを結び付けて表現できるようにする。

3 目 標

- (1) 階名と音の高さとのかわりやハ長調の階名唱に関心を持ち、音程や拍の流れに気を付けて演奏できているかを振り返りながら、階名唱やふしづくりの活動に進んで取り組むことができる。
- (2) ドレミ体操や階名の分担唱、ふしづくりなどの活動を通して、階名と音の高さとを関係付けてとらえることができる。
- (3) リズムや音程に注意しながらハ長調の階名視唱をしたり、鍵盤ハーモニカで旋律を演奏したり、つくったふしを演奏したりすることができる。

4 指導計画（全7時間）

過程	思いや意図を連続・発展させる心の高まり	教材	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
課題把握	音階や楽譜で遊ぶと楽しいな。	「ドレミあそび」	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ドレミで歌ってあそぼう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ ドレミの交互唱をする。 ○ 五線譜の仕組みについて話し合い、拡大五線譜の上で遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音階や五線譜に対する理解を深めさせるために、拡大五線譜やワークシートで音符の位置と階名、五線や縦線、ト音記号について、拡大五線譜の上で動きながらとらえる活動を設定する。 ○ 音の高さを感じ取りながら階名唱させるために、動きの高さと音の上がり下がりを見取る活動を取り入れ、階名の関係と音の上がり下がり関係を付けられるようにする。 ○ 階名唱のよさを感じ取らせるために、階名唱の部分単音で歌う場合と階名唱で歌う場合とで比較する活動を設定する。 ○ 指くぐりや指またぎの奏法を身に付けさせるために、友達同士で運指を確認したり速度を変えて演奏をしたりする活動を設定する。 ○ 前後半での受ける感じの違いを考えられるように、リズムについて比較させる活動を設定する。 ○ 鍵盤ハーモニカで後半部分を演奏しやすいように、体を動かしながら階名唱し、音の高さに合わせて上下に動かす活動を設定する。 ○ 鍵盤ハーモニカでの演奏がしやすいように、役割分担で階名唱を隣でさせたり階名暗唱を生かして演奏させたりする活動を取り入れる。 ○ 音の高さの上がり下がりを感じさせるために、教師の例と自分でつくったふしを階名唱しながら音の高さで比較して音の高さを感じる活動を設定する。 ○ イメージしたふしをつくる楽しさを味わわせるために、相互発表・鑑賞では、同じ旋律で違うイメージの場合や同じイメージで違う旋律になっている場合でも発表させ、それぞれの考えを出させてから演奏をさせる。
課題追求 I	ドレミで歌うとふしのながれが分かってくるね。	①	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ドレミあそびをいかして音の高さに気をつけて歌ったり演奏したりしよう。(本時)</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ドレミで歌おう」の範唱を聴き、曲の感じについて話し合う。 ○ ドレミあそびをいかして歌詞唱したり鍵盤ハーモニカで演奏する。 	
課題追求 II	体や手を動かすことで、音の高さを感じ取ることができたよ。	②③	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">楽しい感じができるように、けんぱんハーモニカで演奏しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 階名暗唱を生かして鍵盤ハーモニカで演奏する。 ○ 演奏しやすくするために、指くぐりや指またぎの仕方を考え練習する。 	
課題追求 III	はずむ感じやなめらかな感じを意識することで曲の感じがでるような演奏ができたよ。	④⑦	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">二つのふしのかんじのちがいを生かして、歌おう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「海風きって」を聴き、曲の感じについて話し合う。 ○ アとイの違いについて話し合ったり違いに気を付けて歌ったりする。 	
まとめ	階名が分かるとイメージしたふしをつくることもできるんだね。 音階や楽譜についてもっと知りたくなった。	「海風きって」	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">リズムよく鍵盤ハーモニカでえんそうして合わせよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 拍の流れを感じ取りながら、後半部分をリズムよく鍵盤ハーモニカで演奏する。 ○ 役割を分担して階名唱したり鍵盤ハーモニカで演奏したりして前後半をつなげて演奏する。 	
			<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">海のように合うようなふしをつかってえんそうしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 海の様子をイメージしながら、ふしづくりをし、階名唱したり鍵盤ハーモニカで演奏したりする。 ○ できたふしを発表し合う。 	
			<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">つくったふしの発表をしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ旋律や違う旋律、同じまたは違うイメージの友達と発表し合う。 ○ 学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; background-color: #e0e0e0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音階を覚えると音高や音程が分かってうれしいな。 ・ 音階で歌えると歌も楽器の演奏もしやすいね。 </div>	

5 本 時 (2 / 7)







(1) 目 標

ハ長調の楽譜を見て歌ったり演奏したりすることに関心を持ち、音の高さの移り変わりを手の上下動や、鍵盤ハーモニカでの指の動きと関係付けながら歌ったり、演奏したりすることができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、音階に焦点化して活動できるように、前時までの活動を想起させたり、旋律把握の時に、手の上下動を取り入れたりする。また、拍の流れに合わせて演奏できない要因を互いに聴き合う活動を通して探ることで今後の学習の進め方の見通しをもたせていく。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
課題把握	1 ドレミ遊びをする。  <p>ドレミのことを音階というんだっただね。音階に合わせて体を動かしたり歌うのは楽しいね。</p>	(分) ↑	<ul style="list-style-type: none"> ○ 題材の重点となる音楽を形づくっている要素である音階への焦点化を図るために、前時の活動を振り返り音階に合わせて歌うことや体を動かすことの楽しさを想起させる。 ○ 自分の思いや意図を明確にさせるために、範唱を聴いて感じたことや気付いたことを友達と交流させ、出た意見を板書する。 ○ 旋律の順次進行や反復に気付かせるために、旋律把握時に音階に合わせた手の上下運動を取り入れる。 ○ 階名唱のよさを感じ取らせるために、階名唱の部分単音の「ラララ」で歌う場合と、階名唱で歌う場合とで比較する活動を設定する。 ○ 音符や記号などへの理解を深めるとともに、階名記入をスムーズにできるように、視聴覚機器を使ったり、既習の記号について掲示したりしておく。 ○ 今後の学習の進め方の見通しをもたせるために、拍の流れを機器の音で示した場合と、示さない場合の演奏を比較し、課題の要因を自分たちで見いださせるようにする。 ○ それぞれの表現のよさを感じ取ることができるようにするために、相互発表・鑑賞する場を設ける。 ○ 本時の学習を生かしながらか見通しをもって次の学習に取り組ませるために「次の学習でどんなことをしていきたいかな」と発問し、子どもたちの思いや願いを高める。
課題追求	2 「ドレミで歌おう」範唱を聴く。  <p>歌詞の中にドレミが出てくるね。それに合わせて、またドレミあそびをしてみたいな。</p> <p>思いや意図</p>	8	
旋律把握	3 本時の学習について話し合う。 ドレミあそびをいかして音の高さに気をつけて歌ったり、演奏したりしよう。 3 聴唱や、手の上下動も取り入れながら旋律把握をし、演奏する。 <p>音楽を形づくっている要素を基に比較・関係付け</p> <p>音の高さ</p>  <p>ラララで歌うよりドレミで歌うほうが高さが分かるな。</p>  <p>音階に合わせて手を動かすと、少しずつあがったりさがったりしているのが分かるね。</p> <p>拍の流れ</p>  <p>ソラソやファミレの部分みんなと合わせてひけないよ。</p>  <p>たくさん上がったたり、下がったりするところは指の動かし方も工夫が必要だね。</p>	31	
表現の工夫	6 相互発表・鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> 音階で歌うと旋律がどう変わっていくかよく分かるね。 階名で歌っていたから、鍵盤ハーモニカでうまく演奏できたよ。 		
相互発表・鑑賞	7 学習のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> 体を動かしたりしながら、音階に気をつけて歌うと正しい音程で歌ったり、楽器を演奏したりできるぞ。 拍の流れに合うように、指くぐりや指またぎの練習もしていきたいな。 	6	
まとめ			